

2026年度 神戸市外国語大学 特別選抜（帰国子女・外国人留学生） 入学試験問題【小論文】

次の文章を読んで、下の設問に答えなさい。

ソルブ人は、オリンピックのメインスタジアムにまるごと全員が入ってしまうほど小さな民族です。しかもドイツ語圏の中に住んでいるので、ソルブ語を話す人はみなドイツ語をも問題なく話します。つまりバイリンガルです。ですので、ソルブの人たちと会話をするためにソルブ語を学ぶ必要はありません。いわば共通語が究極まで浸透した状況だと思ってください。つまりソルブの人たちはふだん自分たちの間でソルブ語を話すけれど、周りのドイツ人たちとドイツ語で話すことはまったく問題がないわけです。これを、英語に当てはめてみると、日本人が全員英語をまったく不自由なく使えるような状況です。そのような状況は英語の場合、あまり想定できないのですが、この地域の共通語としてのドイツ語についてはそうなっています。

では、この地域でドイツ語でどういう情報が伝えられているか、ソルブ語でどういう情報が伝えられているか、見ていきましょう。ここでご紹介するのは、私が現地調査を行ってきたあるソルブの村についての紹介冊子です。この冊子は全頁すべて、ドイツ語とソルブ語が並記してあります。ですからドイツ語だけを読む人は、同じことがソルブ語でも書いてあると思うかもしれませんが、でも、そうではないのです。表紙をめくってみましょう。最初の頁に村長のあいさつが載っています。ドイツ語版とソルブ語版から典型的な文を引用します。

「〇〇 [村のなまえ] では何百年も前からソルブ人とドイツ人が、私たちの二言語 [ソルブ語とドイツ語] を使う故郷の繁栄のために共に働いています」(原文ドイツ語)

「私たちの祖先が見せてくれた模範は、今日の私たちにとってソルブ民族の存続のために全力をそそぐ責任を自覚させます」(原文ソルブ語)

ドイツ語版では、故郷の繁栄がうたわれていますが、ソルブ語版では、民族の存続への思いが述べられています。ソルブの人々の民族的アイデンティティの表明は母語であるソルブ語でしかされないことが多いのです。ですから、ドイツ語だけ読むのとソルブ語をも読むのとでは、まったく異なった情報やニュアンスに接することになります。

(中略)

ここでご紹介したドイツ語とソルブ語の違いの特徴をもっとも明確に象徴するのが、村の境界を写した写真の説明です。ここでは、同じ場所を説明するのにドイツ語とソルブ語で違う表現をしています。ドイツ語では「村の西の入り口」と書いてあります。では、ソルブ語ではなんと書いてあるのでしょうか。「村の西の端」と書いてあるのです。これは何も深く考えてこのように表現し分けているわけではなく、ドイツ語やソルブ語で書くと自然にそうなるのです。自分たちがふだんこの二つの言語を話している感覚として、言語によって見方が違って、ドイツ語で村を語るときは外から見ているのです。外の人たちの目線で村を見る。一方、ソルブ語では、自分たちが住んでいる村の中から見ているのです。ある場所をどうやって表すかという、緯度や経度で客観的に表すことはできますが、私たちが言語化するときは何らかの視点から物事を見ます。(中略) ドイツ語で書いてあることは外の人向け、ソルブ語は中の人向けです。ドイツ語でいって意味のある情報とソルブ語でいって意味のある情報は違って来るわけです。で

2026 年度 神戸市外国語大学 特別選抜（帰国子女・外国人留学生） 入学試験問題【小論文】

すからドイツ語とソルブ語で同じことを発信するのはほぼ無意味であり、ソルブ語で発信されている内容は、ドイツ語と違う内容で発信されないとこの人たちにとっては意味がない。逆にいうとソルブ語ならではの内容が発信されるからこそ、この人たちは現在までソルブ語を使うことに意味を見出しているのです。

（中略）

ドイツ人からすると、ソルブの人たちはなんでいまだにソルブ語を使っているのか意味がわからないと思うのかもしれませんが、ソルブの人たちからすると、自分たちの落ち着く空間をソルブ語を使って保っていて、そこに、不安定な流動化する世界のなかで、抛り所をもつことができるという一種の安心感みたいなものを見出しているんだなということが伝わってきました。

ソルブ語を通じた人々の結びつきは非常に密度が濃いのですが、それを一種の安全網（セーフティネットワーク）のようにもっていることがこの人たちにとっては安心材料になっています。こういうときよくアイデンティティということを行います、アイデンティティなどといっているのは知識人だけで、村の人たちはそんな抽象的な概念ではなく、もっと生活に根ざした形で結びつきを感じているようでした。そういったことはソルブ語による伝え合いのあり方を実際に体験することを通してはじめて実感としてわかってきます。

（中略）

ドイツ語だけを使う人の多くは、ソルブの人たちが自分たちの言語や文化にもつ思いに気がつくことはないまま、この地域でソルブ人たちと共存しています。ですからソルブ人が、ドイツ人のいるところでソルブ語を使うと、あえてわからない言語で話していじわるしているのではないかと怒ったりするのです。ソルブ人としては自分たちのつながりを慣れた言語で確認したいだけなのに。実は、ドイツ人とソルブ人の間には、見えない溝があるのです。わかりあえていない。

（中略）

ソルブの人たちの例が示すことは、共通語でことばが通じるからといって理解ができると思ってはいけないということです。これは、決して少数民族の特殊事情ではありません。もう一段階大きくとらえると、同じことが特定の地域や国を理解するときにもいえます。たとえば、ドイツ（語圏）の情報は英語でも得ることができますし、ドイツ人のなかには英語で問題なくコミュニケーションがとれる人も少なくありません。しかし英語による情報が、往々にして外向けに取捨選択され加工された情報であることはおさえておく必要があります。

木村護郎クリストフ著『節英のすすめ 脱英語依存こそ国際化・グローバル化対応のカギ！』（萬書房 2016年、74-80頁）より抜粋。出題に際して一部省略、変更した箇所がある。

設問 1 あるソルブの村についての紹介冊子のドイツ語版とソルブ語版の内容になぜ違いがあるのか、300字以内で説明しなさい。(30点)

設問 2 日本でも「英語を公用語にすれば良い」という意見がある。筆者の少数言語に対する見方を踏まえて、この主張に対するあなたの意見を500字以内で述べなさい。(70点)